

ディリー・ジーザス・ニュース #259

受難週の火曜日…試練と教えの日

詩篇110章でイエスはパリサイ人にダビデとメシアの関係について質問する
MT 22. 41-46 (並行聖書 : MK 12. 34B-37, LK 20. 40-44)

41 ファリサイ派の人々が集まっていたとき、イエスは彼らに尋ねられた。*42 「メシアについてどう思いましたか？ 彼は誰の息子ですか？」*

「ダビデの子です」と彼らは答えました。

M 「なぜあなた方律法学者たちはキリストをダビデの子だと言っているのですか。*43 MT* では、なぜダビデは聖霊によって語り、彼を「主」と呼んでいるのでしょうか。」*L*彼は詩篇の中でこう言っています。

*44 主は私の主に言われた。
「私があなたの敵を滅ぼすまで、
私の右に座っていなさい
。 あなたの足元に。」* (詩篇 110. 1)

45 「デイビッド自身が彼を「主」と呼んでいるのに、どうして彼がデイビッドの息子なのだろうか？」

46 だれも一言も答えることができず、その日から、だれもイエスに質問する勇気はなかった。しかし、大勢の群衆は喜んでイエスの話を聞き入っていた。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク=^M、ルカ=^L、ヨハネ=^J、使徒行伝=^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体**はイエスの言葉を示します。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレムの神殿の庭
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	C. 火曜日：テストと指導の日
タイトル	9. イエスはパリサイ人にダビデとメシアの関係について質問する

コメント :

今日の朗読箇所で、イエスは敵が自分に向ける最も難しい質問を三つも難なく答えた後、ただ一つだけ質問をしました。その質問は彼らをひどく困惑させ、彼らは永久に沈黙しました。誰もイエスにそれ以上質問する勇気はありませんでした。

デイリー・ジーザス・ニュース #259

イエスの問いは、権威、聖書の知識、そして最も重要な神についての知識という問題を一つにまとめ上げました。それはまさに大ヒットでした。イエスは詩篇110篇1節を引用し、パリサイ人や聖書の専門家がメシアに対して抱いていた一般的な期待が、この聖句と矛盾していることを示しました。

イエスは、敵が全く知らなかつた大きな秘密兵器を持っていました。三位一体の永遠の一員として、イエスは父、子、聖霊の関係の真実を完全に理解していました。私たちが三位一体の真理を知ったのは、イエスご自身のおかけです。それは、新約聖書の信仰を定義する、キリスト教独自の教義です。

私たちは、三位一体の存在としての神を信じ、経験します。なぜなら、イエスがこの真理を私たちに明らかにし、彼の恵みを通してそれを私たちの経験の中に開いてくれたからです。

三位一体の現実性は、旧約聖書において、人類創造の箇所、「我々のかたちに、我々に似せて、人を造ろう...」（創世記1章26節）や、ダニエル書7章13-14節の「人の子」といった箇所に示唆されています。三位一体としての神の本質は旧約聖書と完全に整合しており、実際、イエスに関する他のすべてのことと同様に、旧約聖書を完全に成就しています。

詩篇110章は、旧約聖書の中で、三位一体の真理がその内容の根底にあるもう一つの箇所です。イエスは、この問い合わせを通して敵に突きつけました。以前のDAILY JESUS NEWSの投稿（DJN #002と#003）で取り上げた、イザヤ（6章）、ダビデ（詩篇110章1-4）、ダニエル（7章12-14）と、先在のイエスとの出会いの大きな意義は、イエスがそのうちの一つを用いて、詩篇110章でダビデが経験したように、三位一体の真理でパリサイ人を惑わしたこと、今、より明確になります。

イエスは、ダビデが自分の子孫の一人が永遠に生き、神の王国を統治するという啓示を受けた際に経験した苦悩を指摘しました。ユダヤ人の考え方では、先祖は常に子孫よりも偉大でした。メシアは「ダビデの子」と呼ばれ、これは聖書に記された正当な称号でした。日曜日、つまりイエスがメシアとして迎え入れられた日には、多くの人がこの名でイエスを呼んでいました。この見方では、メシアは先祖であるダビデ王に匹敵するほど偉大な存在でした。

しかし、メシアは先祖ダビデよりもはるかに偉大でした。約束通り、メシアの人間性はダビデから受け継がれましたが、永遠の神性は人間に由来するものではなく、イエスは永遠の神でした。それゆえ、父なる神はダビデの主であるイエスに詩編110章1節を語られました。「主はわたしの主に言われた。『わたしがあなたの敵をあなたの足元に置くまでは、わたしの右に座していなさい。』」

三位一体の真理とは、ダビデの肉による子孫が、彼の主であり神でもあることを意味しました。イエスは永遠の神の御子であり、父なる神と同一の神性を有し、ダビデもまた父なる神を主であり神と呼んでいました。これは詩篇110章でダビデが苦悩した真理であり、イエスが彼らに明らかにするまで、敵対者たちはこれを決して考えませんでした。イエスは、三位一体の神の本質について歴史上唯一の真の専門家でした。なぜなら、イエスもまた永遠の神であり、三位一体の第二位格であったからです。

聖書の中でダビデ王が証言している三位一体の神秘を、圧倒され無力な敵たちに投げつけたイエスのくすぐす笑いが聞こえてきそうだ。

ディリー・ジーザス・ニュース #259

限られた知識しか持たない罪深い者が、全知なる宇宙の創造主と議論を交わすのは、決して良い考えではありません。イエスの敵たちは、自分たちがそうしていることに気づいていませんでしたが、主は気づいていました。神の御子を拒絶することの結末がこれほど悲劇的でなかつたら、滑稽な出来事だったでしょう。イエスが数分後に再びエルサレムに対する悲痛な悲しみを表明するのも不思議ではありません。

応用：

三位一体の教義は、単なる信条の一つ、あるいは命題神学の公理ではありません。それは宇宙のあらゆるものを創造し、支えている現実なのです。

イエス・キリストの神性の真理は、三位一体の真理を必要とします。三位一体は、キリスト教徒を他の一神教、そしてあらゆる異教から区別する根底にある理解です。イエスはこの貴重な教義を私たちに与えてくださいました。私たちもイエスのように、この教義を、神についてこれまでに啓示された最も畏敬すべきものとして大切にすべきです。